梓 AZUSA

CPLER Newsletter
2018.4.20 No.26

「梓」… 法曹分野に従事する早稲田大学校友（稲門法曹）と早稲田大学大学院法務研究科修了生・在学生および早稲田大学法学学術院教員を繋ぐ、法学情報・コミュニケーション誌。

集り散じて ― 修了式・入学式報告 ―

2018年3月25日、早稲田キャンパス8号館にて大学院法務研究科の2017年度 修了式が行われ、112名の修了生が早稲田の杜を巣立っていきました。

修了式の終了後には、大学院法務研究科承認学生研究活動団体Welcome-LawSchool主催の祝賀会が、リーガロイヤルホテル東京にて開催され、多くの修了生が参加し、盛会となりました。

修了生からのメッセージ「法務研究科で過ごして」

2018年3月大学院法務研究科修了　加藤（かとう） 甲斐斗（かいと）

私は学部時代から司法試験に絶対に合格したいという熱い思いを持っていました。そこで、予備校等にも通っていたのですが、その際の勉強方法は、最高裁や通説などの暗記等を中心として勉強し、これらに対する批判や他の学説についてはどちらかといえば効率性のために軽視していたと思います。しかし、大学院法務研究科に入ってその考え方、勉強方法が変わりました。大学院法務研究科での授業では、先生方が最高裁や通説を説明するために、そもそもなぜ論点として問題となるのか、どうしてこのような結論になったのかを反対説等を交えながら解説してくださり、授業を通して通説以外の学説をおさえることは、各論点の深い理解につながるということを知りました。その際に生じた疑問も、先生方に質問しに行くと、私が自ら思考できるように丁寧に誘導してくださいました。このような大学院法務研究科での先生方の指導方法は、「この論点の答えはこうあるべき」との固定観念に縛られていた私にとっては、当初は少し抵抗がありました。しかし、次第に考えることの面白さ、法律の奥深さを感じられるようになり、段々と自分の頭で思考して事案を検討することができるようになっていきました。このような日々を通じて、法解釈の能力が上昇しただけでなく、法律が好きで考えるのが楽しいという気持ちを強く感じるようになりました。

私は、早稲田大学大学院法務研究科に入学して本当によかったと強く思っています。大学院法務研究科の先生方や、学生の皆さんなど、色々な人達と出会い、交流することで視野を広げることができたこと、充実した日々を過ごせたこと、そして何よりこれらの日々を通して自身の将来を決定するきっかけになったこと等、得たものがたくさんあるからです。このような素晴らしい日々を与えてくれてくれた早稲田大学大学院法務研究科の皆様、ありがとうございました。

入学式

2018年4月2日、早稲田キャンパス8号館にて大学院法務研究科の2018年度入学式が行われました。

満開の桜の下、136名の新入生が早稲田の門をくぐりました。

入学式では、甲斐研究科長の式辞や松村教務主任、杉本教務主任の挨拶とともに、来賓の古川法子氏（弁護士・本研究科修了生）から祝辞があり、最後に新入生全員で校歌を斉唱しました。

入学式後には、稲門法曹奨学金に採用された新入生に採用通知が授与されました。

第4回早稲田大学・カリフォルニア大学バークレー校・法専門職教育シンポジウム　開催報告

大学院法務研究科教授　宮川 成雄（みやがわ しげお）

米国のロースクール教育で現在キーワードとなっているのは、“practice ready”である。2008年のリーマンショック以来、実務界はロースクールに「即戦力」となる修了生を求めている。そのためのカリキュラム改革が、臨床系科目6単位の必修化である。米国法曹協会のロースクール認証基準は、2016年度入学生からこれを求めている。

2017年12月9日・10日、標記の法専門職教育シンポジウムを開催し、日米ロースクールが直面する教育上の課題と法専門職について検討した。米国からは、同校ロースクールのチャールズ・ワイセルバーグ教授をはじめ6名が報告した。本学からは臨床法学教育研究所のメンバー4名が報告した。

第2日には日本のロースクール教育の姿を米国側に伝えるべく、本学法務研究科修了の弁護士及び現役学生が、英語での報告とパネル討論を行った。報告サポートチームを含め15名が、どのような法曹をめざし、どのような学修をしているかを意欲的に論じた。

大学院法務研究科　2年　青沼 貴之（あおぬま たかゆき）

早稲田大学大学院法務研究科に在学中の青沼貴之と申します。私は、『第４回早稲田大学カリフォルニア大学バークレー校・法専門職教育シンポジウム』に参加し、プレゼンテーションを行いました。

本シンポジウムでは、日本のロースクール生が、何を学び、何を経験し、何をしたいのかという現状等をバークレー校の教授陣に伝え、日本の法科大学院の状況を知っていただくことを目標とし、私達はプレゼンテーションを行いました。質疑応答、交流会を通して、バークレー校の教授陣とお話しさせていただいた感触としては、私達が掲げていた目標を十分に達成できたと思います。

私は、『ロースクールを選択する意義』についてプレゼンテーションを行いました。約4か月かけて関係者間で話し合い、発表資料を作成し、何度もリハーサルを重ねました。かかる準備をするにあたり、宮川成雄教授を中心とした先生方、法務研究科承認学生研究活動団体『WITH』所属の学生達、法務研究科所属の友人など、多くの人に助けていただきました。彼らの助けがなければ、シンポジウムは成功しなかったと思います。ここに厚く御礼申し上げます。

このように学生が多くの人と協力し、自分自身が置かれている状況を客観視し、現状ないし将来の目標を国内だけでなく海外にまでも発信できる機会はなかなか得られるものではありません。この貴重な経験を糧に日々の勉学に励み、将来において、関係者の方だけでなく、多くの人びとに何かしらの還元をしたいです。

具体的には、信頼できる仲間とともに日本一大きな事務所を作り、日本で最も良い法律相談を行うだけでなく、中高生に対する法教育、大学生・ロースクール生に対する司法試験の受験指導、法律分野の研究を行い、日本の司法に対する意識等を少しでも向上させていければと考えています。

2017年度　早稲田ロースクール稲門会奨励賞受賞者

早稲田ロースクール稲門会奨励賞は、課外活動や社会貢献活動に積極的な学生の功績を表彰することを目的とし、法務研究科修了生で構成される「早稲田ロースクール稲門会」により制定されました。

本年度も多数の優れた応募者の中から、3名の学生（共に2018年3月 大学院法務研究科修了）が本賞を受賞しました。

【氏名・受賞理由】

●遠藤　克（えんどう　かつみ）
複数の活動に積極的に参加し、後進に課外活動の意義を伝えた。

●國府田　豊（こうだ　ゆたか）
学外に積極的に交流を求め、在学生に交流機会を広めた。

●高橋　歩（たかはし　あゆみ）
刑事模擬裁判を企画・運営し、「刑事裁判の“楽しさ”」を周囲や後進に伝えた。

法務教育研究センター助手　退職のご挨拶

法務教育研究センター助手
小島 秀一（おじま しゅういち）

2018年3月末をもちまして、任期満了により法務教育研究センター助手を退職することになりました。この3年間、学務面では、甲斐克則研究科長、松村和德教務主任、秋山靖浩教授、広報委員会・加算プログラムＷＧの先生方のご指導のもと、大小様々な講演会・交流会・説明会、パンフレット等の作成、修了生向けリカレント教育、ＦＬＰ、法学部における「法曹の仕事を知る」の授業等の企画に参加させて頂きました。研究面では、臨床法学教育学会・創立10周年記念大会のプレシンポジウムやシンポジウムに登壇させて頂くなど、臨床法学教育について自分なりのアプローチを検討してまいりました。その他、学校法務やいじめ防止対策推進法に関して、学校現場に赴きつつ実証的に検討をしてまいりました。

この3年間、本当に多くの方々に温かいご指導、ご助力を賜りました。甲斐研究科長を始め、先生方、事務所の皆様には、改めて深く感謝を申し上げます。

2018年4月からは、法務研究科の非常勤講師として、「臨床法学教育（民事クリニック）」を担当させて頂くことになりました。この3年間で培いました知見を活かし、より良い授業とできるよう実践してまいります。また、学務面では、法務研究科と稲門法曹会との連携について、稲門法曹会の理事・事務局幹事としてお手伝いをさせて頂ければと思っております。今後、非常勤講師として、また、弁護士法人早稲田大学リーガル・クリニック所属の弁護士として、ご恩をお返ししてまいりたいと存じますので、引き続きご指導ご鞭撻を頂ければ幸いです。3年間、本当にありがとうございました。

法務教育研究センター助手
松岡 佐知子（まつおか さちこ）

2015年4月から3年間、早稲田大学法務教育研究センターの助手として活動させていただきました、松岡佐知子と申します。任期中は、先生方、事務所の皆様、修了生の皆様に支えていただき、おかげさまで、大変充実した3年間を過ごすことができました。心より感謝申し上げます。

私は、特に法務研究科の進める女性法曹輩出促進プロジェクト（Female Lawyers Project、通称FLP。Webサイト：http://www.waseda.jp/prj-flp/index.php）の事務方として活動させていただきました。主に、学生が女性法曹と気軽に会話できる「おしゃべりカフェ」や、多様なキャリアプラン・働き方を知ってもらう「女性法曹カフェ」の企画進行、シンポジウムや講演会の記録化、女子大学での広報などに携わらせていただきました。プロジェクトの始動期ということもあって試行錯誤の3年間でしたが、先生方や修了生の皆様のお力で「おしゃべりカフェ」「女性法曹カフェ」も定着しつつあり、イベントの記録化もひとつひとつ積み上げることができました。このプロジェクトに、助手として関わらせていただけたことを光栄に思っております。そして、引き続き、プロジェクトメンバーの一員として、活動を続けていきたいと考えております。

その他にも、法務研究科の広報や、法学部向けの授業などのお手伝いもさせていただきました。助手の仕事を通じて、「活動そのもの」も大切ですが、その活動の存在や意義を多くの人に知っていただくことも重要で、かつ非常に難しいということがよく分かりました。今後も稲門法曹会の活動等で広報のお手伝いができればと思います。3年間、本当にありがとうございました。

法務研究科　退職教員のご紹介

●定年退職

浅古　　弘（あさこ　ひろし）　教授

鎌田　　薫（かまた　かおる）　教授

※総長としては本年11月まで任期がございます。

戸波　江二（となみ　こうじ）　教授

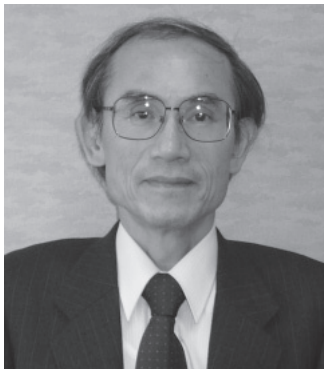
●任期満了

瀬川　信久（せがわ　のぶひさ）　教授

西口　　元（にしぐち　はじめ）　教授

日本学士院会員に選定されて

大学院法務研究科教授　瀬川（せがわ） 信久（のぶひさ）



このたびのことは、民法の解釈論・立法論の土台造りを続けてきたことに対するものと考えています。法律の勉強を始めた頃、法律の議論に腑に落ちないことが多く、そんなときはそれぞれの判例・学説の背景を探りました。最初に研究した不動産付合法も、錯綜した議論を無理に整理するのでなく、それぞれの学説や判例の背景に遡って捉えることを試みました。本法務研究科でも、先生方との共同研究の中で、詐害行為取消権や特殊不法行為の研究をまとめましたが、同じ姿勢で取り組みました。

法科大学院の授業では判例・学説の考えを説明するだけで手一杯です。しかし、時々、個々の判例や学説の背景にも言及しました。背景を知ることで現在の判例･学説を相対化し、事情が変わったら判例･学説が動く可能性、動く方向を意識することができます。

このような作業も、法科大学院の目指す「理論と実務の架橋」の一つだと思います。しかし、「理論と実務の架橋」のためには、このような個別の解釈問題だけでなく、先生方の日々の苦労を含むこれまでの法科大学院の経験を基礎に、司法試験問題のあり方も含めて、法曹教育と法学のこれからを考えなければなりません。それは、法科大学院に限らず、社会に対し大学が、「実務」に対し「理論」が背負うべきものを明らかにする作業でもあります。

本法務研究科では、授業中のやり取りや授業外での質問、先生方との議論を通して、とても充実した教育・研究に取り組むことができました。皆様に心より感謝申し上げますとともに、これからも同じ気持ちで取り組みたいと考えております。

早稲田大学大学院法務研究科の新たな挑戦
平成30年度加算プログラムにて配分率130%を獲得

このたび、文部科学省の「平成30年度法科大学院公的支援見直し強化・加算プログラム」の審査結果が発表されました。同プログラムは、法曹養成に関する法科大学院の先進的な取組を支援するものです。この審査において、早稲田大学大学院法務研究科は、補助金配分率130%(全国の法科大学院中2位)の評価を受けることができました。

全国で16件（国立大学7件、私立大学9件）の【特に優れた取組】に、本研究科から3件（「重層的な国際化対応プログラムの実施」、「特進コースによる法曹養成プログラム」および「『挑戦する法曹』育成・特別コースの設置」、「女性法曹輩出促進プロジェクトの創設」）が選ばれたほか、【優れた取組】として2件（「教育連携型の地域法曹育成」、「『未修者教育』システムの改革プログラム」が選ばれています。

これまでの実績を含めた当研究科の取組に対する高い評価が、今回の審査結果につながったものと考えております。本研究科は、これからも、優れた法曹を養成するための取組を継続し、更なる改革に挑戦していきます。

「梓」送付停止や、送付先のご住所・ご勤務先の変更等をご希望の場合は、以下の申請フォームにて申請をお願いいたします。

代理の方による申請も可能です。

＜申請フォームURL＞

https://www.waseda.jp/folaw/gwls/alumni/wls-news-letter/

早稲田　梓　**検索**

稲門法曹奨学金へのご寄付についてのお問合せ
早稲田大学大学院法務研究科
Tel：03-5286-1678　Fax：03-5286-1720

2018年4月20日　発行
編集・発行　早稲田大学法務教育研究センター
〒169-8050　東京都新宿区西早稲田1－6－1
Tel：03-3208-9592 ／ Fax：03-5286-1720
Email：law-school-cpler@list.waseda.jp
http://www.waseda.jp/folaw/cpler/